

鏡視下手術部

1. スタッフ

部長(教授) 佐田 尚宏
 医員(教授) Alan Lefor
 医員(准教授) 藤原 寛行

2. 鏡視下手術部の特徴

鏡視下手術部は、2007年10月診療科横断的な組織として中央部門に設立された。鏡視下手術は本邦導入後19年が経過し、適応疾患・施行診療科が徐々に拡大している。当院の鏡視下手術施行診療科は下記の14診療科に及ぶ。

(鏡視下手術施行診療科)

消化器・一般外科
 呼吸器外科
 腎臓外科
 小児外科
 移植外科
 形成外科
 産婦人科
 泌尿器科
 小児泌尿器科
 整形外科
 耳鼻咽喉科
 脳神経外科
 消化器内科
 麻酔科 (順不同)

これらの診療科が全く同じインターフェイスで鏡視下手術を行えるように、快適かつ効率的な鏡視下手術環境・機器の整備、鏡視下手術技術の向上、教育システムの確立を目指した活動を推進している。

3. 業務内容と実績

1) 中央手術部鏡視下手術機器整備

2008年9月より、鏡視下手術部運営会議を設立、鏡視下手術機器の運用・更新の統合・均一化を推進している。2008年度は手術室8号室に天吊りモニターおよび録画システムを導入した。

2) JMU鏡視下手術シミュレーションの開催

鏡視下手術技術向上、新規手術導入への準備等を目的として、本学実験医学センター医療技術トレーニング部門と共同で、ブタを用いた鏡視下手術トレーニング(JMU鏡視下手術シミュレーションと命名)を年6回開催している。

2008年開催実績

第1回：2008年2月27日(水)
 第2回：2008年5月2日(金)
 第3回：2008年6月25日(水)
 第4回：2008年9月12日(金)
 第5回：2008年10月29日(水)
 第6回：2008年12月19日(金)
 参加診療科：8診療科
 延べ参加者数：80名

3) 鏡視下技術修練システムの整備

本学における鏡視下手術技術の向上、鏡視下手術技術基準の作成を目的に、技術修練システムの整備を計画している。

4. 事業計画・来年度の目標

1) 中央手術部鏡視下手術機器整備

2009年度は天吊りモニター・録画システムを徐々に拡張し、すべての鏡視下手術を録画、電子カルテへの静止画供給システムを整備する。

2) JMU鏡視下手術シミュレーションの開催

2009年開催予定

第7回：2009年2月25日(水)
 第8回：2009年4月17日(金)
 第9回：2009年6月24日(水)
 第10回：2009年9月4日(金)
 第11回：2009年10月28日(水)
 第12回：2009年12月18日(金)

3) 鏡視下技術修練システムの整備

2009年度JMU鏡視下手術シミュレーションを核に、ドライラボ(バーチャル、リアルシミュレーター)の導入を、本学メディカルシミュレーションセンターと共同で推進する。バーチャル、リアルシミュレーター、ex vivo、in vivo実習を組み合わせた鏡視下手術技術習得システムを確立し、本学独自の鏡視下手術施行基準を作成する。